

お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第68弾をお届けします。

(シリーズ担当：R.I.)

第68話 昔の害虫対策

「大日本農史」神代篇には、「古語拾遺」からの引用として、次の神話が紹介されています。大国主命(おおくにぬしのみこと)が、役畜として重要であった牛を屠殺して農民に食わせたことが御歳神の怒りを招き、その怒りの表れとして蝗(イナムシ)が発生したというのです。この蝗とは、ウンカのことです。神の怒りである虫害を回避するため、「虫送り」と呼ばれる祭礼が行われました。

虫送りの行事には、鉦太鼓(かねたいこ)をたたき、松明(たいまつ)をともし、大勢の人々が田畑を練り歩き、最後に虫形や斎藤実盛の人形などを流す行列型と、神社や寺で行う祈祷型とがあります。

斎藤実盛は、源平合戦で壮烈な討死をした平家方の老将です。源氏方の攻め手と斬り合ったとき、不運にもイネの切り株に躓(つまず)いて転んだところを打ち取られました。死に臨んで、「わが亡霊、必ず悪虫と変じ、行末永く源氏の世を呪い、五穀の成就を妨げん」と遺言したそうです。

虫送りに際して、農民たちの唱える言葉が地方ごとにあります。

柳田国男の「分類農村語彙」には、「後生よ、後生よ、実盛どん、後生よ」(長崎県五島)、「実盛どのは、よろずの虫をお伴につれてお通りなされ」(和歌山県串本付近)、「実盛さんのおんたちなれば、稲虫どもがついてたつ」(広島県大朝町)などが紹介されています。

ほか、趣の異なる駆除も行われていました。注油法は、水田に油を注いでイネにたかる害虫を死滅させる方法です。すなわち、田一面に水を張り、そこに油を流し込みます。当時は鯨油がもっとも多く用いられました。油は水の表面に広がって膜をつくります。その後、ササの枝や竹竿をもってイネを叩き、あるいはイネ茎を水中に倒して茎葉を洗います。すると、イネに付着していた害虫が水に落ち、油に包まれて気門が閉ざされ呼吸困難になって死ぬのです。虫の活動の不活発な早朝に行うと特に効果がありました。この注油法を、末永(1966)**は、「日本で発見され育てられた科学的な害虫除去法の著名なもののひとつ」と評価しています。この方法を全国に宣伝し、普及に努めたのは、幕末の大蔵永常(おおくらながつね)です。その顛末は「除蝗録(じょこうろく)」(1826)として著され、現代に伝わっています。

参考までに、日本各地で行われていた虫送りを以下に列挙します。

○相内(あいうち)の虫送り：青森県五所川原市相内(旧・北津軽郡相内村)に伝わる。青森県指定無形民俗文化財

- 奥津軽虫と火まつり：青森県五所川原市に伝わる。五所川原市指定無形民俗文化財
- 木境大物忌神社（きざかいおおものいみじんじゃ）の虫除け祭り：秋田県由利本荘市八森城址（矢島城城址）内一円に伝わる。秋田県指定無形民俗文化財
- 高橋の虫送り：福島県大沼郡会津美里町高田に江戸時代より伝わる。会津美里町指定重要無形民俗文化財
- 福島県大沼郡三島町の西方・名入・大石田に伝わる。福島県指定重要無形民俗文化財
- 野田の虫送り：千葉県袖ヶ浦市野田に伝わる。袖ヶ浦市指定無形民俗文化財
- 虫送り：横浜市都筑区南山田に、江戸時代より伝わる。横浜市指定無形民俗文化財
- 善願（ぜんが）の虫送り：新潟県五泉市赤海地区に伝わる。五泉市指定無形民俗文化財
- 床鍋（とこなべ）の虫送り：富山県氷見市床鍋に伝わる。約 130 年前（2017 年時点）に始まり、一時途絶えたが、平成 2 年（1990 年）に復活した。現在は新暦 6 月中旬に行われる。幣帛（へいはく）を立てて竹と藁を主材に作られた直径約 1m・長さ約 8m の円筒形の大松明に村外れで火を点けた後、山道や畦道を曳き廻し、鉦や太鼓を打ち鳴らしながら「泥虫どろむしほーい、泥虫ほい」の囃子文句と共に練り歩き、最後に大松明を立て、一気に燃え上がる炎で稲虫を追い払う。平成 16 年（2004 年）に富山県教育委員会主催で選定された「とやまの祭り百選」の選定物件の一つ（選定名称：床鍋の虫送り）
- 横江の虫送り：石川県白山市横江町に、江戸時代より伝わる。白山市指定無形民俗文化財
- 虫おくり：福井県鯖江市筋生田町に伝わる。鯖江市指定無形民俗文化財
- 犬石（いぬいし）の虫送り行事：長野県長野市篠ノ井有旅および犬石区一円に、江戸時代より伝わる。長野市選択無形民俗文化財
- 東横田の虫送り行事：長野県長野市篠ノ井横田東横田区一円に、江戸時代より伝わる。長野市選択無形民俗文化財
- 先達（せんだつ）の虫送り：長野県諏訪郡富士見町先達に、江戸時代より伝わる。富士見町指定無形民俗文化財
- 岐阜県美濃市で存続している虫送りは、美濃市指定無形民俗文化財
- 尾張の虫送り行事：尾張で存続している虫送りの総称。常滑市矢田と稲沢市祖父江町に残っており、昭和 59 年（1984 年）に「尾張の虫送り行事」の名称で愛知県指定無形民俗文化財

これらは、

「虫送り Wikipedia」<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%99%AB%E9%80%81%E3%82%8A> から引用しました。

このように、虫送りの行事は全国で行われており、枚挙にいとまがありません。



左の写真は、江戸時代から今も小豆島に伝わる虫送りの行事です。毎年7月上旬（地区ごとに日が異なる）の夕方午後6時頃から、火手（ほて）と呼ばれる松明を持って田圃の畦道にかざし、「とうぼーせ、とうぼーせ」と叫びながら歩きます。

写真 68-1 虫送り、江戸時代から小豆島に伝わる行事
(出典) <https://yousakana.jp/mushiokuri/>

(参考・引用文献)

黎明期日本の生物史 (1973) : 木原均・盛永俊太郎・篠遠喜人・筑波常治・内田亨・上田益三共著、養賢堂

末永一 (1966) : 注油と払い落とし、農薬ことはじめ、全国農村教育協会